様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １１ 日現在

機関番号：２３３０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１５９６１

研究課題名（和文）地域包括ケアシステムにおける診療所看護のプライマリ・ケアに関する質指標の開発

研究課題名（英文）Evaluation of degrees of importance and implementation by nursing professionals, regarding clinic nursing

研究代表者
林　一美（Hayashi, Kazumi）

石川県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：３０２７９９０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：目的：診療所看護項目を明確化し、「重要度と実施度」それらの「乖離」を明らかにした。方法：診療所勤務の専門看護師・認定看護師14名に聞き取り調査し、質的記述的分析にて「診療所看護領域と内容、項目」を作成した。診療所勤務の看護師25名および、専門看護師・認定看護師16名に、デルファイ法を用い作成項目を2度アンケート調査した。
結果：「診療所看護領域と内容、項目」は、8実践領域と内容、79看護項目であった。デルファイ法2次調査は、全てが重要度を高く判断したのは20項目であった。実施度が高かったのは6項目であった。乖離は、看護師25項目、専門看護師・認定看護師4項目と大きく差が認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「診療所看護領域8領域（Ⅰ～Ⅷ）と内容、看護項目79項目」を明らかにした。領域と項目数は、Ⅰ診療所看護師としての基本姿勢10項目、Ⅱ診療所の対象者の看護過程を行う18項目、Ⅲ診療提供を効果的におこなうための看護8項目、Ⅳ診療所マネジメントに関する看護20項目、Ⅴ往診・訪問診療に伴う看護6項目、Ⅵ医療・福祉・教育機関との連携11項目、Ⅶコミュニティナースとしての看護提供3項目、Ⅷ専門職としての自己啓発3項目であった。
　診療所看護項目の重要度と実施度、乖離に関し、看護師および、専門看護師・認定看護師の特徴を明らかにした。これらの結果は今後、診療所看護に関する教育内容を検討するうえで有用性がある。

研究成果の概要（英文）： This study was conducted to identify nursing care items regarding clinic nursing, and to elucidate their degrees of importance and implementation, as well as the gaps between these aspects.We interviewed 14 clinical nurse specialists (CNSs) and certified nurses (CNs) working at clinics, through qualitative descriptive analysis. we conducted using the Delphi method, targeting 25 registered nurses (RNs) working at clinics, and 16 CNSs and CNs. The fields of clinic nursing, including descriptions and particulars, consisted of eight practical fields, including descriptions and 79 nursing care items. The survey showed 20 items on which both the RNs and CNSs/CNs placed high degrees of importance. Six items were judged to have high degrees of implementation by both the RNs and CNSs/CNs. There were 25 items with significant gaps between their degrees of importance and implementation for RNs, and four for CNSs/CNs, revealing a difference between these two groups.

研究分野：在宅看護学

キーワード：診療所看護　看護項目　重要度　実施度　乖離

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

「医療介護総合確保推進法」の方針では、「できる限り住み慣れた地域で生活し、地域で人生の最後を迎えることができる環境整備」が唱えられ、地域包括ケアシステムの構築を通じ、地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保が位置づけられている。各々の地域の特性に応じて、将来の医療ニーズに対応できるように、機能分化・連携が急務となっている。地域の診療所は、患者の健康上の問題・疾病に対し、総合的・継続的・全人的に対応する地域の保健医療福祉機能を果たしている。その機能は、超高齢社会を迎えたわが国の医療体制において、今後ますます重要になる。それに伴い地域の診療所における看護の役割は多岐にわたり、その専門性も期待される。しかし日本の看護においては、必ずしも「診療所看護の看護内容や機能、その看護の質」について、明確にはされていない。またプライマリ・ケアの視点から、実践で活用される指標にまでは至っていない。これらのことから、地域包括ケアシステムにおける診療所看護のプライマリ・ケアに関する質指標の適用可能性を考慮して定義することは、実践者の自己学習や看護の質管理のツールとして活用が可能となり、診療所看護が社会において果たす役割が明確化されると考える。

２．研究の目的

本研究は、以下の 2 点を明らかにした。

１）診療所看護の診療所看護領域と内容、項目を明確化する。

２）上記１）に対して、看護職者の重要度、実施度、乖離についての評価を明らかにする。

３．研究の方法

１）対象者

（１）診療所に勤務する専門看護師・認定看護師

（２）診療所に勤務する看護師

２）方法

（１）「診療所看護」に関する文献レビューにて 26 看護文献から「診療所看護」223 項目の看護行為を抽出し、項目の関連性や共通性を検討し 10 要素を導き出した。それらをもとに診療所勤務の専門看護師・認定看護師から「診療所看護」について半構成的面接法により聞き取りをした。

（２）上記（１）より得られた「診療所看護項目」について、診療所勤務の看護師および、専門看護師・認定看護師へのアンケート調査を実施し、どの程度重要視しているかについて「重要」「場合により重要」「重要でない」の 3 段階で評価してもらった。また実施度についても「実施している」「場合により実施する」「実施していない」の 3 段階で評価してもらった。

３）分析方法

（１）診療所に勤務する専門看護師・認定看護師を対象とした聞き取り調査は、聞き取り調査の内容を録音し、逐語録を作成した。逐語録から「診療所看護項目」を抽出し、類似したものをまとめ「領域と内容」「項目」として分類した。

（２）診療所に勤務する看護師および、専門看護師・認定看護師へのアンケート調査は、デルファイ法を用いて「診療所看護項目」について、看護師および、専門看護師・認定看護師から各項目 3 件法で回答を得た。項目ごと 1～3 の中央値、IQR(四分位範囲)、IQR%を算出し、実践度及び重要度のコン

センサスの指標とした。また重要視しているが、実践していない項目を乖離項目とした。

４．研究成果

１）対象者の属性

診療所に勤務する専門看護師・認定看護師を対象とした聞き取りは専門看護師 5 名、認定看護師 9 名の 14 名におこなった。デルファイ法 1 次調査は看護師 36 名・専門看護師・認定看護師 22 名、2 次調査は看護師 25 名・専門看護師・認定看護師 16 名であった。

２）診療所看護領域と内容、項目

診療所に勤務する専門看護師・認定看護師を対象とした聞き取りをおこなった。聞き取り調査をもとに「診療所看護領域と内容、項目（以下領域と内容、項目という）」を作成した。診療所看護は、8 つの領域（Ⅰ～Ⅷ）と内容、79 項目であった。看護実践領域は、診療所看護師としての基本姿勢 10 項目、Ⅱ診療所の対象者の看護過程を行う 18 項目、Ⅲ診療提供を効果的におこなうための看護 8 項目、Ⅳ診療所マネジメントに関する看護 20 項目、Ⅴ往診・訪問診療に伴う看護 6 項目、Ⅵ医療・福祉・教育機関との連携 11 項目、Ⅶコミュニティナースとしての看護提供 3 項目、Ⅷ専門職としての自己啓発 3 項目であった（表１）。

表1　診療所看護に関する内容と項目

領域名		内容	項目数
Ⅰ	診療所看護師としての基本姿勢	診療所看護師は、診療所の理念に基づき、地域文化を踏まえた診療所看護を提供できる。患者･家族が診療に参加し、健康に関する相談ができる場づくりをする。患者や家族の生活支援に着目している。	10
Ⅱ	診療所の対象者の看護過程を行う	診療所看護師は、診察待合中や診察中において、患者や家族の看護アセスメントをおこない、家族を巻き込んで看護を実施する。電話でのフォロー対応をする。	18
Ⅲ	診療提供を効果的におこなうための看護	診療所看護師は、診察･処置･検査において、患者･家族が安全･安楽･不安なく実施できるように看護を提供する。	8
Ⅳ	診療所マネジメントに関する看護	診療所看護師は、診療所の組織運営のための管理業務を行う。	20
Ⅴ	往診･訪問診療に伴う看護	診療所看護師は、往診や訪問診療に同行し、在宅での患者･家族に対し看護アセスメントして、ケアを提案する。	6
Ⅵ	医療･福祉･教育機関との連携	診療所看護師は、患者や家族に応じた在宅ケアチームを多職種と連携･協働しながらつくる。日頃から在宅ケアチームのケアの質向上のために貢献する。	11
Ⅶ	コミュニティナースとしての看護提供	診療所看護師は、地域の健康ニーズを拾い上げながら、住民との信頼関係を築き、地域住民の健康に関する知識･技術の啓蒙に貢献する。	3
Ⅷ	専門職としての自己啓発	診療所看護師は、専門職として自らの知識･技術を高めていくための活動ができる。	3

２）診療所看護項目の重要度

看護師の重要度が高いと判断した項目数は、47 項目であった。専門看護師・認定看護師の重要度が高いと判断した項目数は、32 項目であった。看護師および専門看護師・認定看護師ともに重要度が高いと判断した項目数は 20 項目であった。

３）診療所看護項目の実施度

看護師が実施していると判断した項目数は、12 項目であった。専門看護師・認定看護師が実施していると判断した項目数は、16 項目であった。看護師および専門看護師・認定看護師ともに実施していると判断したのは 6 項目であった。

４）乖離項目

看護職が重要視はしているが、実践していない項目を乖離項目とした。看護師が乖離項目

と判断したのは、25 項目であった。専門看護師・認定看護師の乖離項目数は、4 項目であった。

上記２）～４）の結果から、看護師および専門看護師・認定看護師は、異常の早期発見や診療後の様子観察を重要視していた。加えて、本研究では健康問題を持つ人だけでなく、家族の健康ニーズの特定や把握も行い、看護アセスメントした結果を訪問看護につなげることも重要視していた。看護師および専門看護師・認定看護師ともに実施していると判断した項目内容は、患者から情報収集し、医師に伝え、診療や検査介助、薬剤や物品の補充・点検、衛生的な環境整備であった。乖離項目数は看護師 25 項目、専門看護師・認定看護師 4 項目であり、乖離項目数において看護師と専門看護師・認定看護師に大きな差があった。診療所看護師は、off- JT として同じエリアの診療所看護職らのネットワークにおいて、学習活動や情報収集のシステムづくりや支援が必要であると思われる。

これらの結果は今後、診療所看護に関する教育内容を検討するうえで有用性がある。

<引用文献>

①斜森亜沙子ら,(2015)わが国のプライマリ・ケア機能を担う診療所における看護師の担うべき役割と必要な能力：日本プライマリ・ケア連合学会誌,38(2),102-110.

②湧水理恵ら（2016）在宅重症心身障碍児家族の支援ニードと専門職による重要度及び実践度評価-看護職および行政職を対象としたデルファイ法による調査より-:厚生の指標、63（4）,23-32.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 林一美、山﨑智可
２．発表標題 診療所看護の質指標作成に向けた項目の明確化に関する調査
３．学会等名 第8回日本在宅看護学会学術集会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山崎　智可 (Yamazaki Chika) (80601666)	富山県立大学・看護学部・講師 (23201)	